

がん診療連携拠点病院の薬剤師

がん治療は数十年の間、手術時・放射線・抗がん剤の3治療により行われてきました。最近では抗がん剤はがんから発現する遺伝子を解析し、それに適した薬を使用することが増えてきています。また、従来型のいわゆる抗がん剤に加え「免疫チェックポイント阻害薬」という新たな治療が行われるようになりました。

抗がん剤は非常に強くて怖いイメージもありますが、決まった方法（レジメンといいます）で使用すれば効果を最大限発揮し、副作用をできるだけ軽減することができます。一方「免疫チェックポイント阻害薬」の一つであるオプジーボ[®]がノーベル生理学・医学賞を受賞し夢のような薬として取り上げられたのは記憶に新しいところですが、この薬にも免疫関連有害事象というさまざまな副作用がおこります。中には従来の抗がん剤では考えられなかった重篤な副作用が発現する場合があります。

ところで、桐生厚生総合病院はがん診療拠点病院であることをご存知ですか？ 4月1日には「通院治療センター」がオープンし、薬剤師はその専門性を生かし、安全・安心・確実にがん薬物治療が行えるよう方針や効果・副作用・スケジュールの説明などさまざまな場面で医師、看護師等とともにチームで患者さんをサポートしています。

例を挙げますと

1. 患者さんに抗がん剤や免疫チェックポイント阻害薬の効果や主な副作用を説明します。
また治療開始後は発現した副作用の有無を確認し、早期に対処できるように医師・看護師等と連携をとります。
2. 医師の治療計画に基づき、抗がん剤の種類、スケジュール、使用日数、量などを確認します。
3. 非常に清潔な環境で抗がん剤注射の混注調製を行います。
4. 医師に支持療法（副作用の軽減する治療のこと）の提案を行います。
5. 適切に化学療法が行われるよう、各診療科と協議し、レジメンの管理・運営を行います。
6. 地域保険薬局等に治療薬の情報提供を行い連携を取りながら治療を行います。

などさまざまです。

がん薬物治療の相談や副作用などわからないことや不安なことがありましたら、いつでもご相談下さい。

【薬剤課長補佐 細谷 潤】

